

## 令和5年度算数科授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・図形の学習では、操作を多く取り入れる指導を行ったことで、主に高学年においての図形のとらえ方や公式利用の理解と定着につながってきた。
- ・どの学年においても、日常生活とのつながりを意識した指導を行った。第4学年では「測定」領域の「時ごとと時間」の達成率が目標値や全国平均よりも大きく上回った。児童の日常に既習内容を結び付けていくことは効果的であるといえる。

#### (2) 課題

- ・どの学年においても、数と計算の領域が目標値を下回っている。日々の少人数指導での個に応じた指導はもちろんのこと、平日算数補習教室や土曜補習も活用し、繰り返し練習問題に数多く取り組み基礎を確実に定着させていく必要がある。
- ・高学年では、記述式の問題の無回答率が高かった。なぜその答えになるのか、知識・技能をもとに自分の考えをまとめて説明する力を育てる必要がある。
- ・授業で算数の意味指導に力を注いでも児童にとっては手続き的な処理として定着し、その後の活用につながらなかったり、時間が経つと忘れてしまったりする実態がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	達成率-1.6	/	/
第5学年	達成率-5.6	達成率-0.9 (第4学年時)	/
第6学年	達成率-3.9	達成率-0.6 (第5学年時)	達成率±0 (第4学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・四則演算の加法の筆算の仕方については、目標値よりも大幅に上回っている。しかし、計算の工夫や2桁×2桁の計算など、問題が複雑になってくると課題につながっていく。	・図に表したり、分からない数を□に置き換えた式で表したりする問題では、目標値を下回っている所があった。式の意味について理解させていくことが大切である。	・目標値より達成率が上回っている。特に、グラフや時刻と時間の問題など、身近なこととのつながりに意欲的だといえた。

## ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図形の問題では、両学年とも目標値を上回った。しかし、第5学年では大きな数や億と概数の概念の捉え方に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第6学年では、「単位量あたりの大きさ」の問題で、速さや割合を正しく求めることができているが、円グラフや帯グラフを正しく読み取るような知識・技能を思考につなげていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標値を下回っている。作図の問題では無回答率の割合が高くなることが課題である。</li> </ul>

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長さや水のかさ等、実際に測定する経験を通し量感を養う。</li> <li>・ 加法、減法、乗法が用いられる場面では、ブロックや手指などの具体物による操作を行い、演算の意味の理解を図る。</li> <li>・ 基本的な計算が確実に身に付くように、ドリルやステップ学習のプリント等で繰り返し練習して習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題を最後までよく読み、問われている内容を理解するように考えさせるために、問題文に線を引いたり印をつけさせたり、図を活用する体験を多くして、今後の学習への素地作りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物を用いた活動や体験的な活動を多く取り入れ感性を高める。また、日常生活とのつながりを意識させることで学習への意欲付けをする。</li> <li>・ ICT 機器を活用し、興味をもたせて学習できるよう工夫する。</li> <li>・ 意欲的に自分の考えを発表できるようペア学習やグループ学習の時間を設定し、少人数指導での個に応じた指導を行う。</li> </ul>

### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算問題の習熟の時間を確保し、ドリルやステップ学習のプリント等を活用して定着を図る。また、四則計算では既習内容とのつながりを意識させた指導を行う。</li> <li>・ 重さや長さなど実際に測定する経験を通し量感を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演算決定の際に、□を使った図に表したり、言葉の式を用いたりすることを手掛かりにできるようにする。また、ペア学習などで自力解決した方法を発表させ、自分の考えを深めたり、他の考えに触れたりして様々な解決方法を学ぶ機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別少人数指導による、児童一人一人に応じた指導を行う。また、学びを日常に生かしていこうという意欲をより高めるために、実際に測定したり、日々の生活の中での算数を意識させたりする。</li> </ul>

### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算指導では、操作的な指導に偏らず、意味指導に重点を置いて数感覚が育つようにする。</li> <li>・ 習熟の時間を確保し、ドリルやステップ学習等を活用して定着を図る。また、途中の計算式を正しく書くことで基本の計算が定着していくよう指導する。</li> <li>・ 図形の学習では、実際に操作をすることを通して公式や図形用語の理解と定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データの活用では、ICT・児童のタブレット端末を活用して、グラフや図から情報を視覚的に捉えさせる。</li> <li>・ ペア学習などで自力解決した方法を発表しあい、自分の考えを深めたり他の考えに触れたりして様々な解決方法を学ぶ機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数指導による、個に応じた指導を行う。既習事項を生かして自力解決をする場を授業の中で意識的に設定する。</li> <li>・ ペア学習やグループ学習で自分の考えを伝え合う活動を取り入れ、発表をする際にはノートを電子黒板に映すなど ICT 機器を効果的に活用して意欲的に活動できる工夫を行う。</li> </ul>